

# 内閣官房内閣情報調査室

CABINET  
INTELLIGENCE  
AND  
RESEARCH  
OFFICE

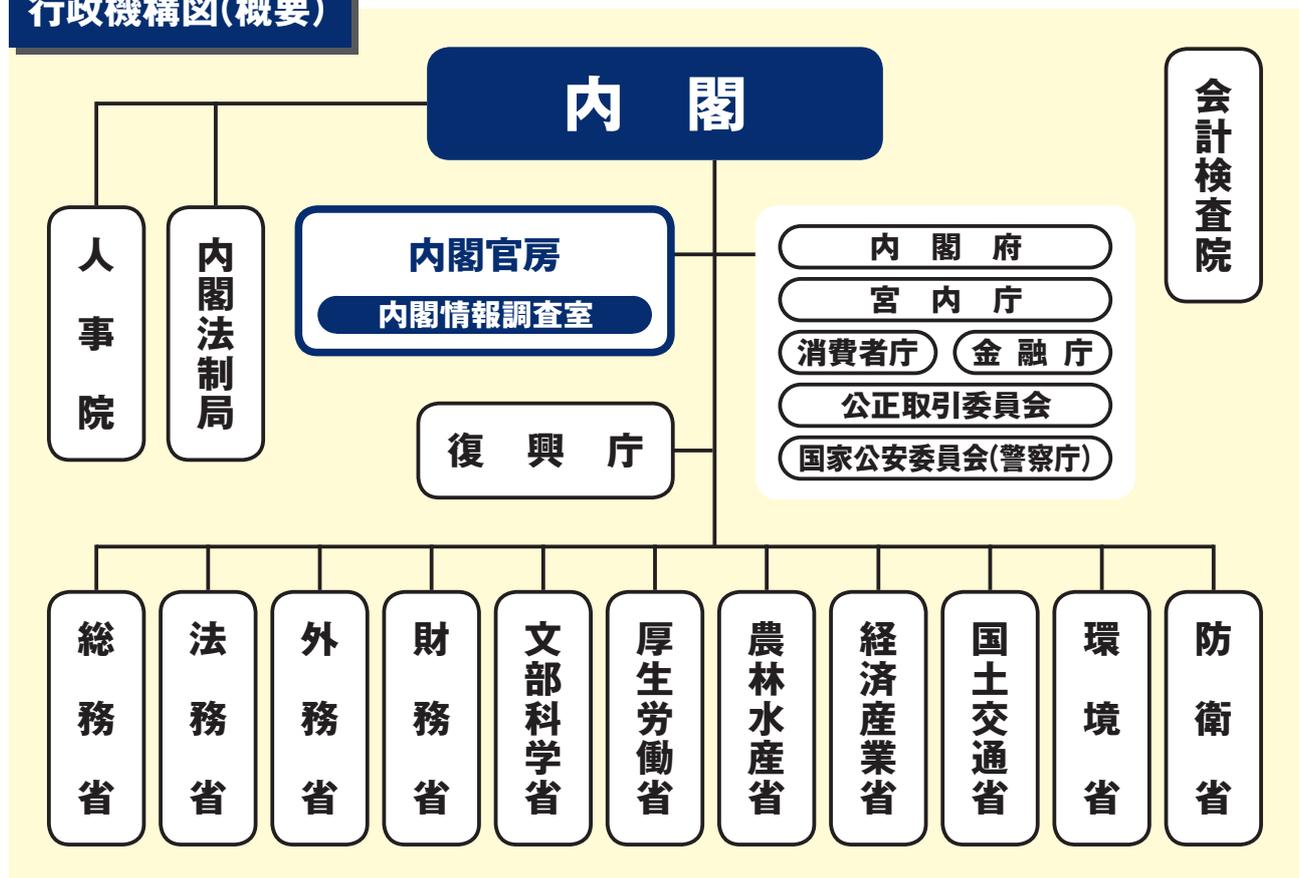


## 採用案内 2016

# Contents

内閣情報調査室を志望する皆さんへ	02
成長する「内調」－歴史と発展－	03
内閣を支える「内閣官房」「内閣情報調査室」	04
「内調」の組織	05
「内調」の役割－総理の「目」「耳」として－	06
先輩職員からのメッセージ	07
情報コミュニティの「要」として	09
緊急事態の発生と初動対処	10
国際テロ情報集約室について	11
キャリアパス－情報の専門家、中核職員として－	12
内閣衛星情報センター－情報収集衛星の開発、運用－	15
内調職員の座談会	18
処遇・給与・福利厚生	20
業務と採用に関するQ&A、採用担当者より	21

## 行政機構図(概要)



# 内閣情報調査室を志望する皆さんへ

## From Director of Cabinet Intelligence

内閣情報官は、内閣法に基づき、「内閣の重要政策に関する情報の収集調査に関する事務」を掌理することとされており、我が国政府の最高意思決定権者である内閣総理大臣を始めとする官邸首脳及び政策部門に対して、その道のプロたちが収集・分析したインテリジェンスを適時に報告するとともに、そのために必要となるインテリジェンス機能の強化を推進し、内閣を直接支える任務を担っている。

我が国の安全保障をめぐる環境は一段と厳しさを増している。近隣では、北朝鮮の核・ミサイルによる挑発行為や、中国公船による領海侵入事案が繰り返され、サイバー空間での攻撃事案も発生している。さらに、拡散する国際テロは、世界中の様々な場所で一生懸命活動する邦人及び我が国の権益に対する看過できない脅威となっている。

そのような厳しい環境に対応するため、昨今、我が国の安全保障体制の強化が進められており、インテリジェンス機能の強化はその中の極めて重要な柱となっている。

まず、国家安全保障会議（NSC）が発足し、安全保障法制が整備されたことにより、政策部門の必要とする情報を提供するインテリジェンス部門の重要性が一層明確に認識されることとなった。そして、安全保障上の重要機密情報を適正に管理するための「器」とも言える特定秘密保護法が施行されたことにより、インテリジェンス機関が国内外の機関との連携を深化させることが可能となった。さらに、昨年には、官邸直轄の情報収集部隊である国際テロ情報収集ユニットが発足し、我が国が海外において first hand の人的情報収集を進めていく上で大きな一歩となった。

また、平成13年に設置された内閣衛星情報センターにおいて運用する情報収集衛星は、我が国の重要な情報収集手段に成長しており、今後、10機体制の整備等に向けた各種検討に取り組む必要がある。

現在、内閣情報官として、多忙を極める総理日程の中、概ね週2回の定例報告のほか、必要な場合には臨時の報告を行っている。そのため、当室のスタッフと力をあわせ、常にアンテナを高くし、速やかに情報を収集するとともに、必要な情報が集約されているか、情報の分析は的確か、報告の直前まで日々苦悩しながら準備に注力している。

この仕事は、決して目立つものではない。だが、総理を直接支え、陰ながら我が国の安全の確保に貢献する誇りと使命感を得ることができる職務である。新たな諸課題にチャレンジする進取の気概を持つ諸君が内閣情報調査室の一員に加わることを願ってやまない。



内閣情報官  
北村 滋  
Shigeru Kitamura

# 成長する「内調」 - 歴史と発展 -

昭和  
27年

4月9日

第3次吉田内閣

## 内閣総理大臣官房調査室

(総理府の組織として新設)

歴史あるこの建物の  
一室から内調の歩みは  
始まりました。



旧総理大臣官邸(現公邸):内閣広報室提供

昭和  
32年

8月1日

第1次岸内閣

## 内閣調査室

(組織変更により内閣官房に)

昭和  
61年

7月1日

第2次中曽根内閣

## 内閣情報調査室

(内閣官房の組織再編により名称変更)

平成  
8年

5月11日

第1次橋本内閣

## 内閣情報集約センターを設置

(緊急な重要情報を24時間体制で収集し、内閣総理大臣等へ報告)

平成  
13年

1月6日

第2次森内閣

## 内閣情報官を設置

(中央省庁再編に伴い内閣情報調査室長から格上げ)

平成  
13年

4月1日

第2次森内閣

## 内閣衛星情報センターを設置

(情報収集衛星の開発・運用、画像情報の収集・分析)

平成  
20年

4月1日

福田内閣

## 内閣情報分析官を設置

(特定の地域又は分野に関する特に高度な分析)

## カウンターインテリジェンス・センターを設置

(外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護)

平成  
26年

12月10日

第2次安倍内閣

## 「特定秘密の保護に関する法律」の施行

(内閣情報調査室が特定秘密の保護に関する企画及び立案並びに総合調整事務を所握)

平成  
27年

12月8日

第3次安倍内閣

## 国際テロ情報集約室を設置

(国際テロ情報の集約、国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整)

# 内閣を支える「内閣官房」「内閣情報調査室」

- ▶ 内閣（内閣総理大臣と国務大臣で組織）に置かれる「内閣官房」は、「閣議事項の整理その他内閣の庶務」、「内閣の重要政策に関する基本方針や閣議に係る重要事項等に関する企画、立案、総合調整に関する事務」、「内閣の重要政策に関する情報の収集調査に関する事務」等をつかさどり、それぞれの事務を、内閣官房副長官補（3人）、内閣広報官、内閣情報官等が掌理しています。（内閣法第12条）

## 内閣官房の組織



### 内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する主な事務 「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」 (内閣官房組織令第4条)

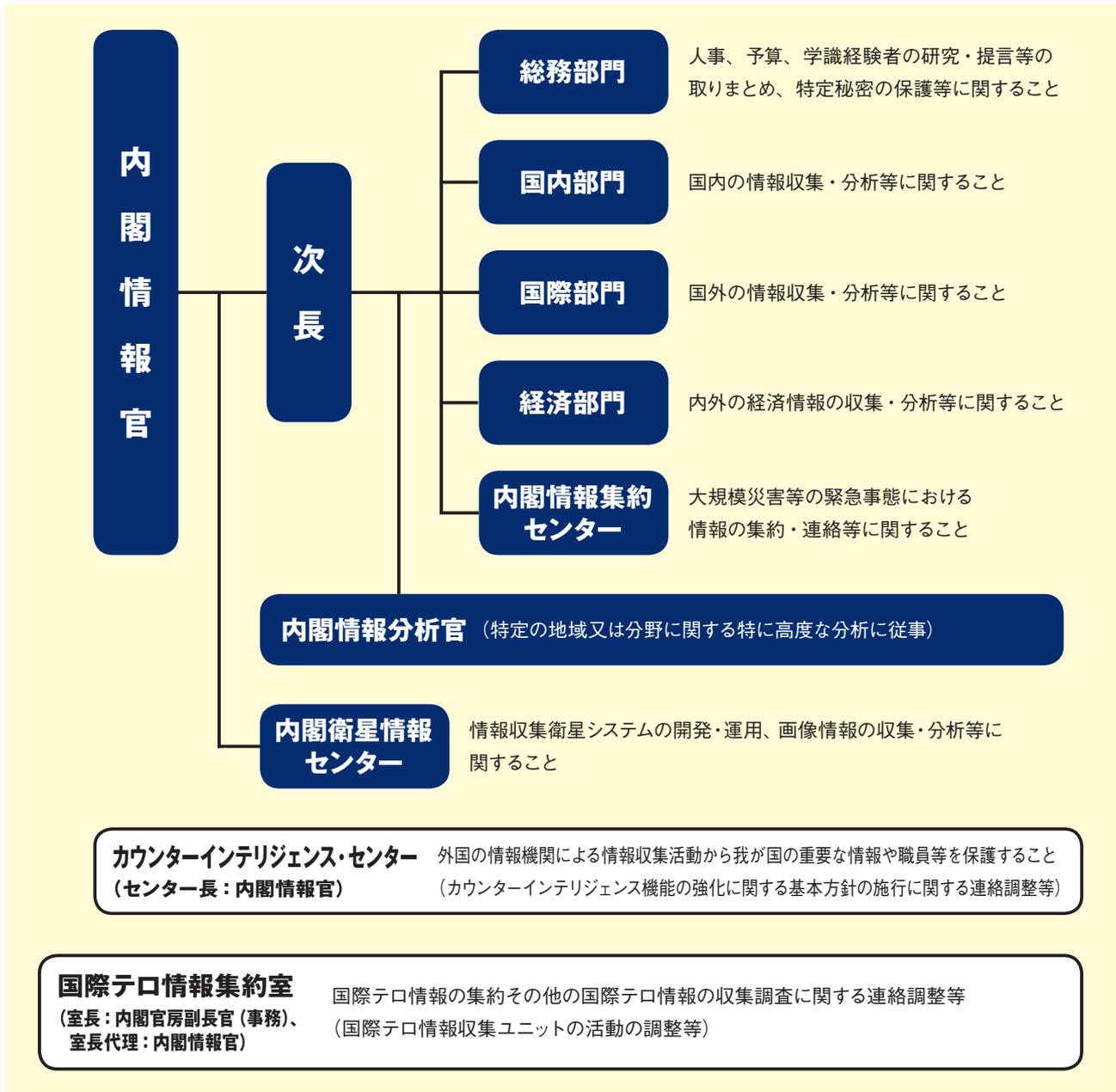
「内閣の重要政策に関する情報」とは、国内外の情勢を正確に把握し、内閣が適時適切に政策を立案、遂行するために必要な情報のことです。その時々々の政治、経済、社会情勢によって、国の重要課題は変化します。

したがって、内閣情報調査室の職員には、「**情報に対する鋭敏な感覚と、時機を逃さないで対応するスピード感**」が求められます。

関係法令 | 内閣法第12条、第20条  
内閣官房組織令第1条、第4条、第4条の3

# 「内調」の組織

▶ 内閣情報調査室（「内調」）が担当する事務は、内閣情報官の下で、下図のとおり、分担されています。



## 内閣情報調査室の職制

内調の職制は、管理職たる内閣審議官、内閣参事官、調査官と、その命を受けて事務を整理する内閣事務官とに大きく分けられます。

課係制をとる他の行政官庁とは異なり、収集、分析した情報を迅速に伝達するという情報業務の特性にかなったフラットかつ柔軟なものとなっています。

# 「内調」の役割 - 総理の「目」「耳」として -

- ▶ 内閣情報調査室の役割は、内閣の重要政策に関する情報を収集、分析して官邸に報告することです。これらの報告は、官邸の政策決定と遂行を支援します。したがって、内閣情報調査室はいわば「総理の『目』『耳』としての役割を担っている」と言えます。そのために、次のような業務を行っています。



内閣広報室提供

## 総理の「目」「耳」として 官邸の政策決定と遂行を支援

### 情報コミュニティ の「要」

官邸直属の情報機関として、官邸の情報関心に合致した各種情報を自ら収集するとともに、情報コミュニティ省庁（内調、警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省等）が収集、分析した情報を集約し、内閣の立場から分析、評価を行っています。

### 総理、官房長官等に対する 「インテリジェンス」報告

情報の収集、分析によって得られた「情報（インテリジェンス）」を、内閣情報官が、内閣総理大臣、内閣官房長官等（「官邸」）に定例報告を行っています。

また、特に緊急を要する情報については、適時適切に、報告を行っています。

### 緊急事態の発生時の 初動対処

大規模災害や我が国の安全が脅かされる事案等緊急事態が発生した場合、あるいはそのおそれのある情報が得られた場合には、内調に情報が集約され、内調から官邸幹部に速報します。

また、内閣に対策本部が設置された場合には、内閣情報官が関係会議等に出席し、情報面から内閣による対応を支えます。

## 国内外の諸情勢に関する情報の収集、分析、評価

# 先輩職員からのメッセージ

## 「情報」を仕事にすること



**平成2年採用（男性）**  
集約センター、  
国内部門等を経て、  
現在は総務部門勤務。

今この採用パンフレットを読んでいる皆さんの多くは、「『内閣情報調査室』って何をしているのだろう？」と思われるのではないのでしょうか。スパイ映画に出てくるような仕事をイメージしている人もいらっしゃるかもしれませんね。

私が所属している部門では、官邸の政策判断に寄与すべく、各界の有識者から様々な情報や見解、提言などを聴取し、これらを報告書にまとめるという仕事を行っています。有識者の方の幅広い教養に圧倒されることもありますが、日々社会問題に対する様々な切り口を発見できるのは、この部門の醍醐味です。

しかし、情報の世界は「いい情報を掴み取る！」という意気込みだけでは済まされません。何よりも「忍耐」と「知識」が大切です。「情報の99%は公然情報であり、残りの1%が非公然情報」と言われるように、いい情報を取るためには、様々な手段を講じて、忍耐強く情報収集を行わなければなりませんし、接した情報が本当に価値ある情報かどうかを判断するためには、その裏付けをするための知識が必要とされるからです。このような日々の積み重ねや個人の弛まぬ努力がいつか花開く。それこそが、情報の仕事の面白さであると感じています。

少々高いところからいろいろと言わせて頂きましたが、かくいう私も、よりよい情報を収集するため、勉強の日々です。近い将来、希望に満ちた皆さんと、共に成長しながら、一緒に仕事ができることを心待ちにしております。



## 国内部門職員、ある日の回想



**平成10年採用（男性）**  
長く国内部門で  
情報収集、分析を担当する  
スペシャリスト。

今週3度目となる深夜0時過ぎの最終電車に急いで乗り込む。金曜日ともあって、今晚は特に混み合っている。溜まった疲れを右手に握った吊り輪に乗せて、私は今日一日を回想する。午前中に提出した資料は今ひとつ材料に乏しかったから、踏み込んだ分析ができなかった。これは今後の教訓としたい。ランチをしたメディア関係者Aさんは相変わらず鋭い見方をしていた。あの分析は想像もしていなかったのでとても新鮮だった。そう言えば、夕方にお茶をした政界関係者Bさんは、心なしか元気がなかったな。最近、私生活でも大変だと聞いていたから、ストレスが溜まっているのかもしれない。近いうちに慰労会をして励ましてあげないといけないな。そして、先ほどまで一緒にいた有識者Cさん。初対面であったが、まるで古くからの友人同士のように会話が弾んだ。政治から経済まで機知に富んでいて、人格も本当に素晴らしい方だった。こういう方に出会うと、自分ももっと頑張らなくてはという気分になる。この仕事の醍醐味だ。

月曜は採用パンフレット原稿のメ切だ。急いで執筆しなくては。私が伝えたいことはただ一つ。人生は仕事ですべてとは言わないが、人生のほとんどは働くことに費やされる。それなら、それに賭けるだけの仕事をしたい。私はそう思う。当室は想像されるような派手な仕事ではなく、地味な仕事の連続ではあるが、それでも努力次第でいくらでも道が開ける魅力的な職場だ。これを読んでくれた方が我々とともにインテリジェンスの道に進む覚悟を決めてくれたとしたらとても嬉しい。

## 自分が成長できる場所



**平成9年採用（男性）**  
外務省出向と在外公館勤務を  
経験。現在は国際部門で  
情報収集・分析を担当。

昨年4月に二度目の海外勤務を終え、現在、国際部門にて各国政府との連絡・折衝等、多様な業務を担当しています。今回の海外勤務を含め、これまで都合4回、他省庁への出向を経験してきました。

昨今、日本の官僚機構の意思決定のスピードの遅さを指摘する声の一部から聞こえてきますが、私は自身の経験から、当室の情報伝達及び意思決定の迅速性は優れたものであると自負しています。また、当室の職制は、年功序列をその基礎とするというよりも、専門性に重きを置いているため、若くても、能力次第で、責任のある仕事に就くことが可能です。私の所属する国際部門には、入省10年未満の若手職員が多く在籍しており、最前線で活躍をしています。

もちろん、実際に勤務する人の能力が欠けていれば、当室の特性が十分機能しない事は言うまでもありませんが、その中核をなす当室の職員も、最初から専門性を身に着けていたわけではなく、採用後の研修等を通じて一歩一歩成長している者ばかりです。実際に、私も、大学在籍中に国際関係論や安全保障論等は一切学んできておりませんでしたし、語学に関しても自慢できるほどのレベルではありませんでしたが、今では国際部門の中堅として、安全保障関係の情報の収集に日々取り組んでいます。

公務員試験は受験したけれど、どの省庁に進もうか決めかねている受験生の方（所掌範囲が広い当室では、きっとあなたが関心を持つ分野に出会えるでしょう。）、あるいは専門性や語学の観点から戻込みしている受験生の方（内調には働きながら専門性や語学力を身に付けた先輩は大勢いますよ。）がいらっしゃれば、是非一度、当室にお越しになり、先輩方から話を聞いてみてはいかがでしょうか？

## 多様化するリスクへ対応するためのツール



**平成元年採用（男性）**  
総務部門において、長く有識者の  
研究、提言等の取りまとめを担当。  
現在は経済部門勤務。

私は、平成元年に他の省庁で採用となり、その後内調へ移籍となりました。国内部門や総務部門などを経て、現在は経済部門で情報収集・分析・評価を担当しています。

経済部門では、日々のマーケット情報や、コモディティ（商品市場）の動向、日々発表される内外の経済指標、国際機関の分析評価レポート、国内外のシンクタンクのレポート、エコノミストをはじめとする有識者の意見などを収集し、それらを基に日々の経済分析・評価を行っています。

近年、世界的にみて重要と思われるのが「地政学リスク」です。これは、特定地域が抱える政治的・軍事的な緊張が世界経済の先行きに不透明感を与えることであり、米連邦準備理事会（FRB）が2002年9月の声明文で触れたことから多く用いられるようになりました。

元々は中東情勢の緊迫を示すものですが、予測が極めて難しく、不確実性の増大が企業行動や消費者心理に悪影響を与え、外国為替相場など経済活動の障害となる可能性があります。このような中で、現在、我が国の近隣諸国だけでも多数の「地政学リスク」が存在します。

このように、時代の変化とともに、潜在するリスクも多様化します。これらに的確かつ柔軟に対応するためには、特定の情報についての専門性を高めるだけでなく、日頃から様々な情報に興味を持ち、貪欲に情報を集め、それを正確に理解することが必要となります。

インテリジェンスに興味をお持ちの方は、ぜひ内調の門を叩いてみては如何でしょうか。



# 情報コミュニティの「要」として

- ▶ 内閣情報調査室は、内閣総理大臣、内閣官房長官、内閣官房副長官等の官邸の政策担当者と、関係省庁との連絡調整を担い、情報コミュニティの要としての役割を果たしています。そのために、以下の会議の運営を担当しています。

## 「内閣情報会議」

国家や国民の安全に関わり、内閣の重要政策に関する事象について、官邸と外交・防衛・治安等の情報を担当する省庁が緊密に連携し、情勢を総合的に把握をすることが「内閣情報会議」のねらいです。

議長は内閣官房長官で、内閣官房副長官（政務・事務）、内閣危機管理監、国家安全保障局長、内閣情報官等の内閣官房の最高幹部と、広義の情報コミュニティ（警察庁、金融庁、公安調査庁、外務省、財務省、経済産業省、海上保安庁及び防衛省）の事務次官クラスが構成員になっており、重要情報を共有するとともに総合的な分析、評価を行い、政策の立案に寄与します。原則として年2回開催されます。



(注) 「情報コミュニティ」は、従来は、内閣情報調査室、警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省の5省庁で構成されていましたが、平成20年3月の閣議決定により拡大されました。(上図参照)

## 「合同情報会議」、「情報収集衛星推進委員会」、「情報収集衛星運営委員会」

これら会議の長は、内閣官房副長官（事務）が務め、内閣情報官のほか情報関係省庁の局長クラス等が構成員となっており、関係省庁間の情報共有、情報収集衛星の開発・運用のための方針決定等を行っています。

この他にも、内閣情報調査室が中心となって、情報コミュニティ内の様々なレベルで定期又は随時の連絡会議を行い、内閣としての政策判断を支援する体制が構築されています。

# 緊急事態の発生と初動対応

## 内閣情報集約センターの役割

当室において、緊急な情報の集約及び連絡を一括して行っているのが内閣情報集約センターです。

内閣情報集約センターは、国内外の重要・緊急な情報を24時間体制で収集、集約し、大規模災害や大規模テロ等の発生に関する情報を、内閣総理大臣等へ直ちに報告することにより、内閣としての的確な初動対応体制を確立することを目的としています。

各省庁との専用回線、内外の通信社との専用回線等のほか、災害発生時には、防衛省、警察庁等のヘリコプターからの映像をリアルタイムで受信するシステム等があり、緊急事態発生時における政府の情報収集、集約の拠点として重要な役割を果たしています。



## 国を動かす「第一報」のために



平成4年採用 (男性)

国内・国際部門や在外公館勤務等、多様なキャリアを積み、現在は危機管理を担う集約センターに勤務。

私が、24時間体制で国内外の緊急事態に関する情報を収集している内閣情報集約センターに勤務して3年の月日が経ちます。

現在、政府は、東日本大震災等の教訓を踏まえ、総理官邸を司令塔として、関係機関が一体となった危機管理体制の構築（緊急事態発生の第一報の速やかな把握、迅速な初動対応、危機管理体制の確立、国民への情報提供）に取り組んでいます。その中でも、内閣情報集約センターは、緊急事態発生時の「第一報」を、内閣総理大臣や総理官邸幹部に入れることが主要な任務であり、対応すべき事案は国内外の大規模な自然災害を始め、事故、テロ、安全保障問題等多岐にわたっています。また、事案の性質上、第一報は秒単位の速さを求められます。

熊本地震（4月14日～）等の自然災害、伊勢志摩サミット（5月26日及び27日）の開催期間の治安動向、北朝鮮による核・ミサイル開発の動き、国際テロ情勢等、今後も予断を許さない状況は続くと思われませんが、政府の初動対応が順調に動き出した時は大きなやりがいを感じますし、内閣情報集約センターの業務の重要性や責任の大きさを痛感します。内調の役割や所掌事務は、私が採用された頃と現在では大きく変わっており、今後もますます拡大していくことでしょう。その中心に、将来、皆さんがいて、中核として活躍していることを期待します。



内閣広報室提供

# 国際テロ情報集約室について

## 国際テロ情報集約室とは

邦人関連事案に関する国際テロ情報の収集等を抜本的に強化するため、平成27年12月、「国際テロ情報収集・集約幹事会」、「国際テロ情報集約室」、「国際テロ情報収集ユニット」が新設されました。

このうち、「国際テロ情報集約室」は、内閣官房副長官（事務）を室長、内閣情報官を室長代理とするほか、内閣情報調査室の職員により構成されています。

「国際テロ情報集約室」は、官邸幹部や関係省庁の情報関心の取りまとめ等を行っており、これに基づいて、「国際テロ情報収集ユニット」は、いわば官邸の直轄部隊として、情報収集を行っています。

### 国際テロ情報収集・集約幹事会

- 国際テロに関する情報及び情報関心の共有、焦点や優先度について集約。

議長は、内閣官房副長官（事務）。構成員には、内閣情報官のほか、計6名の内調幹部職員が含まれる。

### 内閣官房 国際テロ情報集約室

- 幹事会の事務局として、国際テロ情報の集約その他の国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整を実施。

室長は、内閣官房副長官（事務）。室長代理は、内閣情報官。室員は、関係省庁幹部級職員及び内調職員により構成。

### 国際テロ情報収集ユニット

- 4名の幹部級職員の下、東南アジア、南アジア、中東、北・西アフリカの4地域で国際テロ情報を収集。

国際テロ情報収集ユニット員は、すべて内調職員の身分も保有。

## 国際テロ情報収集ユニットに参加して



平成4年採用（男性）

長く国際部門にて情報収集・分析を担当。現在は国際テロ情報集約室勤務。

この組織は、官邸直轄で国際テロ情報の収集を推進するために昨年12月に発足しました。当時、ニュースで話題になったことからご存じの方もいるかと思います。私は、この組織の発足準備段階から関わり、現在も要員の一人として活動しています。

要員は内閣情報調査室をはじめとする情報関係省庁のテロや地域の専門家から構成されています。縦割りが激しい日本の行政システムの中で、このように複数の省庁の力を結集して新たな組織を設立することは、情報分野の新たな扉を開く画期的な試みだと思います。各省庁によって文化、考え方、得意分野が異なる中で、それぞれの長所を出し合いながらゼロから組織を立ち上げることは非常に困難な道のりでしたが、日本が直面する国際テロ情勢の厳しさや邦人が巻き込まれる可能性に鑑み、官邸の強いリーダーシップの下、前倒しで発足されました。

現在も試行錯誤の毎日ですが、他省庁から参加している専門家と切磋琢磨しながら、新たな仕事を切り開くことは非常にエキサイティングです。私はこれまで他の情報関係省庁への出向や在外公館での勤務、さらに、情報と法執行を融合させる分野の仕事を長く経験してきました。こうした経験が、新組織での勤務に役立っていると日々実感します。

情報の世界は、いわゆる一般的な国家公務員の仕事とは異なり、目に見えない目立たない世界ですが、私は、情報という分野から、日本を最前線で守る仕事をしていると自負しています。

チャレンジ精神旺盛な方はぜひ内閣情報調査室の門を叩いてみて下さい。きっとあなたが知らなかったエキサイティングな世界がここにあります。

# キャリアパス - 情報の専門家、中核職員として -

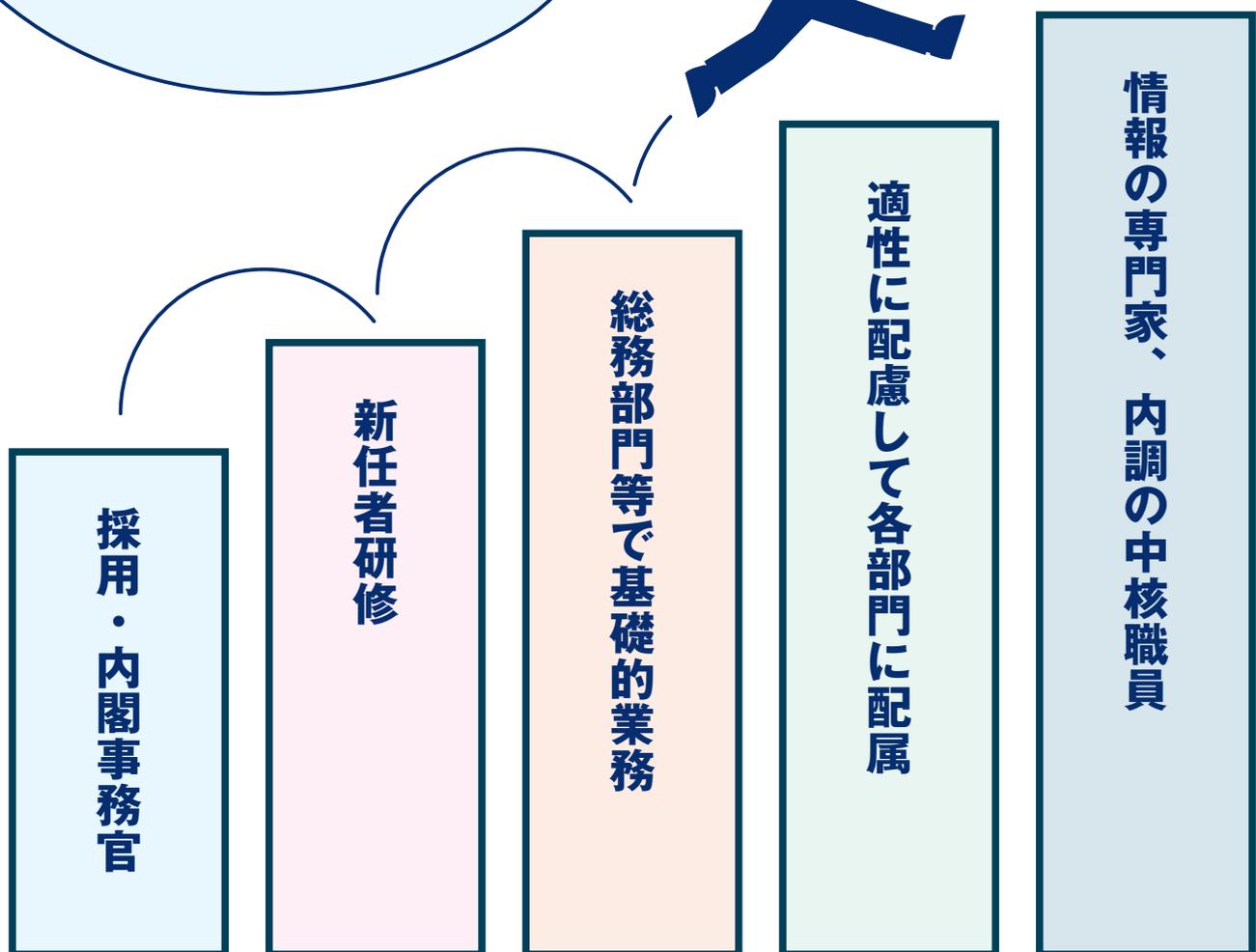
▶ 内閣情報調査室に採用されると、内閣事務官としてキャリアがスタートします。原則として、地方勤務はありませんので、東京で長く働くことになります。

当初の数年間、総務部門等に配属され、公務員としての基礎的なことを身につけるとともに、当室の業務の全体像を理解します。この期間は、いわば最初の実践研修（OJT）の期間となります。

その後、適性に配慮して各部門に配属され、それぞれの専門分野を深めていくことになります。

情報担当として、経験に従って、情報専門官→上席情報専門官→特任情報専門官→調査官、内閣参事官とステップアップしていきます。

また、当室は課係制をとっていませんが、係員→係長→補佐→課長といった職制に当てはめれば、概ね7年で係長級に、20年で補佐級に昇進しています。



## 出向、在外勤務について

専門性を伸ばし、行政実務経験を積むために、情報コミュニケーション省庁（警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省）、内閣府（国会勤務）等への出向を経験します。外務省への出向では大使館等で勤務することもあります。



特に在外勤務は、国外で多様な人々と触れ合う貴重な機会として、当室職員のキャリアを形成していく上で非常に有益であるため、積極的に活用しています。

## スキルアップ支援の一例

### 語学力向上への支援

- 民間語学学校への通学補助
- 各種語学研修（警察大学校等への派遣）

### 専門性の強化

- 国内の大学院における調査研究（行政官国内研究員）
- 外国の研究機関における調査研究（行政官短期在外研究員等）
- 防衛省主催の安全保障問題に関する研修

### 実践研修（OJT）

- 内調における情報業務では、経験豊かな上司、先輩から、日々の業務を通じて仕事のやり方を学ぶことが重要です。

## 「個」の力が試される場所、大使館で勤務をして



### 平成10年採用（男性）

国際・総務部門等を経て、現在はアジア大洋州地域の大使館で勤務。

平成27年春より、アジア大洋州地域の大使館で政治・治安関係の情報収集の仕事をしています。

大使館での仕事について、なかなか具体的なイメージがわきにくいかもしれませんが、私の所属する政務班は、政府機関、マスコミ、各国大使館等の様々な人と接触して情報収集を行うのが主な仕事です。こう聞くと、毎日優雅に食事をしながら懇談しているイメージを持たれるかもしれませんが、その裏では地道なインプット作業も必要とされますし、外務本省及び当地機関との調整や資料作成も同時並行でこなしていますので、華やかなイメージとは裏腹に、多忙な毎日を送っています。

大使館での仕事は、一般的に東京よりも個人の裁量が大きく、「組織」よりも「個」の力が試されます。また、いくら「組織」同士のお付き合いとはいえ、結局は人間同士の信頼関係を構築することが肝心なので、「こいつは信用できるか、時間をかけて会う価値があるか」といった人間としての中身も問われてきます。私自身の大使館勤務は今回で二度目になりますが、まだまだ至らない点も多く、情報官や先輩方ならどうするだろうかと時折東京に思いをはせつつ業務に励んでいます。

内調という組織を外から見てみると、改めて官邸との距離の近さや業務プロセスの迅速さを実感します。求められる役割も急速に拡大・変化しており、よりスピード感や柔軟性が必要とされているように感じます。東京に戻った際には、当地での経験を生かして、内調という「組織」に一層貢献できるよう、残りの数年間「個」の力を磨いていきたいと思っています。

大使館勤務は、情報業務の遂行能力を高めるのに最適な環境です。語学や生活面で不安に思う方もいらっしゃると思いますが、これからの内調を担う若い人には是非チャレンジしてもらいたいと思っています。帰国した際にチャレンジ精神にあふれる皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

## 内調職員として、母として思うこと



**平成14年採用（女性）**  
国際・総務部門等を経て、  
現在は子育てをしながら  
外務省出向中。

官庁訪問や説明会でお会いする女性の方から「女性にも働きやすい職場ですか？」という質問をよくお受けします。ご心配には及びません。当室では、女性職員があらゆる部門で活躍しています。日々の仕事においても、研修・昇任等のキャリアパスにおいても、男女の区別はありません。

仕事と育児を両立する職員も増え、育児休業や勤務時間変更・短縮など、様々な制度を活用しやすい雰囲気醸成されてきており、女性職員はもちろん、育児を積極的に分担したいと考える男性職員にとっても働きやすい職場になっていると思います。

私は総務部門と国際部門で勤務し、1年間の育児休業を経て総務部門に復職しましたが、復職後2年間は保育園の送り迎えのため、勤務時間を制限し、スケジュールのたてやすい業務の担当にいただきました。上司や同僚の理解と協力のおかげで、手間をかけて子どもの世話をし、子どもが安心した表情で眠りにつくのを見守ったりと、母として、この時期ならではの幸せな時間を過ごすことができました。仕事と育児を両立する中で、多様な価値観を受け入れる包容力、複数の物事を効率的に処理する力、段取りが崩れても動じずに対処する力を身につけ、情報のプロとして一回り成長できたのではないかと思います。

更なる成長を目指す私は現在、外務省アジア大洋州局で勤務し、対東南アジア地域外交の一端を担っています。かねてから、政策サイドも経験してみたいと考えていたところ、配偶者が保育園の迎えを担当できるタイミングに合わせての外務本省派遣という希望が叶った形です。保育園のお迎えに急ぐ同僚を応援しながら送り出す立場になりましたが、月に一度は休みをとり、子どもと一緒に過ごす時間をなるべく多く持つようにしています。

私生活も充実させつつ、情報に身を賭していきたいという方、当室にはそのような人生を送る多くの先輩職員がいますので、安心して足をお運びください。

## 他省庁出向の意義を考える



**平成20年採用（男性）**  
防衛省への出向等を経験し、  
現在は国際部門勤務。

日本には、当室を始め、警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省という情報コミュニティ省庁があり、これらの省庁は日頃から緊密に連携をとって情報収集・分析活動を行っていますが、他省庁の情報活動の「現場」を直接目の当りにする機会は限られています。よく「インテリジェンス」は「料理」に例えられますが、それぞれの「料理」には、各「料理人」の「秘伝の製法」があり、客や同業者の立場からはなかなか知ることができないものです。この点、当室職員には、他省庁出向の機会が複数あり、他の「店」の「料理人」として働き、その「秘伝の製法」を知り得るチャンスがあります。こうした経験を通じて、「料理人（情報マン）」としての能力を大きく飛躍させることができます。

私は、自衛官と事務官等が協力して任務に当たる防衛省・自衛隊で勤務したことで、当室では得られないことのない自衛隊員として必要な基本動作について自衛官の方から教えていただき、自らの職業経験の幅を広げることができました。情報コミュニティは意外と狭い世界であり、以前一緒に働いていた方とお互い異なるポストでお会いすることが多々ありますし、このような他省庁との関係は、公私にわたり何物にも代え難い財産となっています。

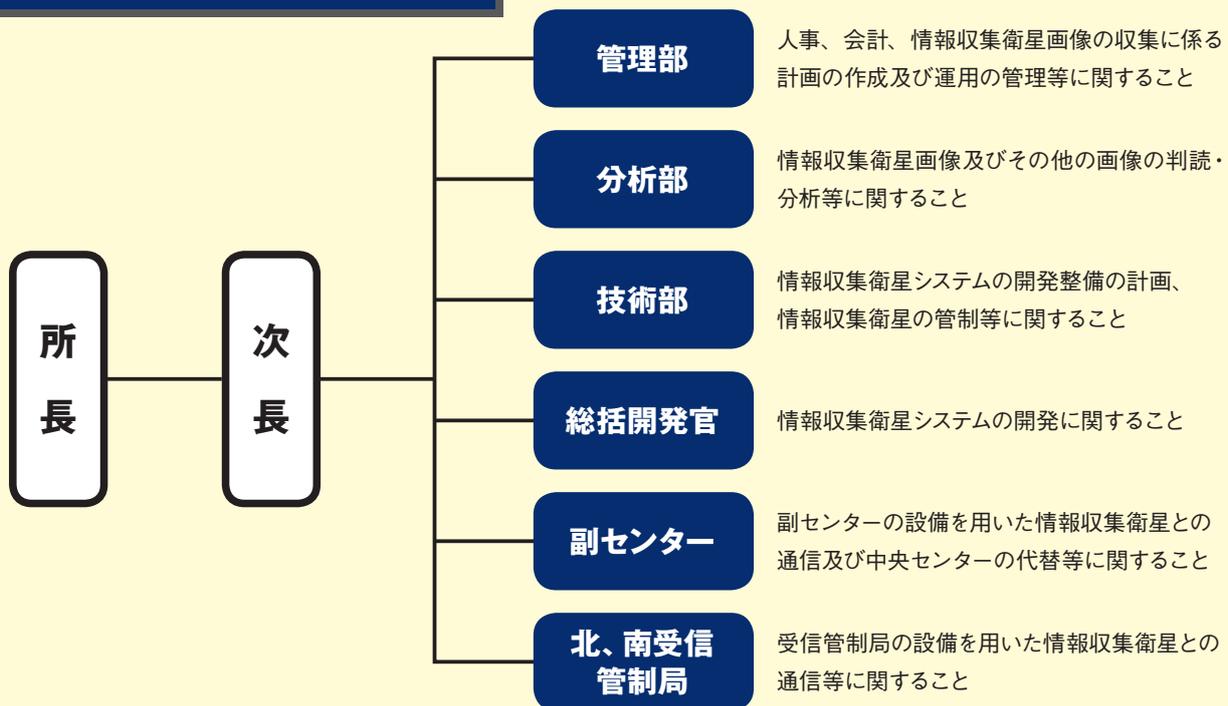
出向から当室に戻って感じたのは、やはり当室と総理大臣官邸の近さです。情報コミュニティの要として、総理を始めとする官邸幹部に日々報告する業務の責任の重さをますます実感するとともに、その分のやりがいも感じながら、日々勤務しています。

さて、先ほど当室には他省庁出向のチャンスが複数ある旨述べましたが、私は、今度、外務省・在外公館に出向する予定になっています。官庁訪問の機会に皆さんとお会いすることができず残念なのですが、この体験談を読まれた方と数年後に当室でお会いできることを楽しみにしております。

# 内閣衛星情報センター – 情報収集衛星の開発、運用 –

▶ 内閣衛星情報センターは、情報収集衛星の開発、運用を行うとともに、外交・防衛等の安全保障や大規模災害への対応等の危機管理のために必要な情報の収集・分析を行っています。情報収集衛星によって得られた情報は、内閣総理大臣、内閣官房長官への報告や、情報コミュニティへの報告書の作成・配付を通じて、政府の政策決定や情勢判断に活用されています。

## 内閣衛星情報センターの組織

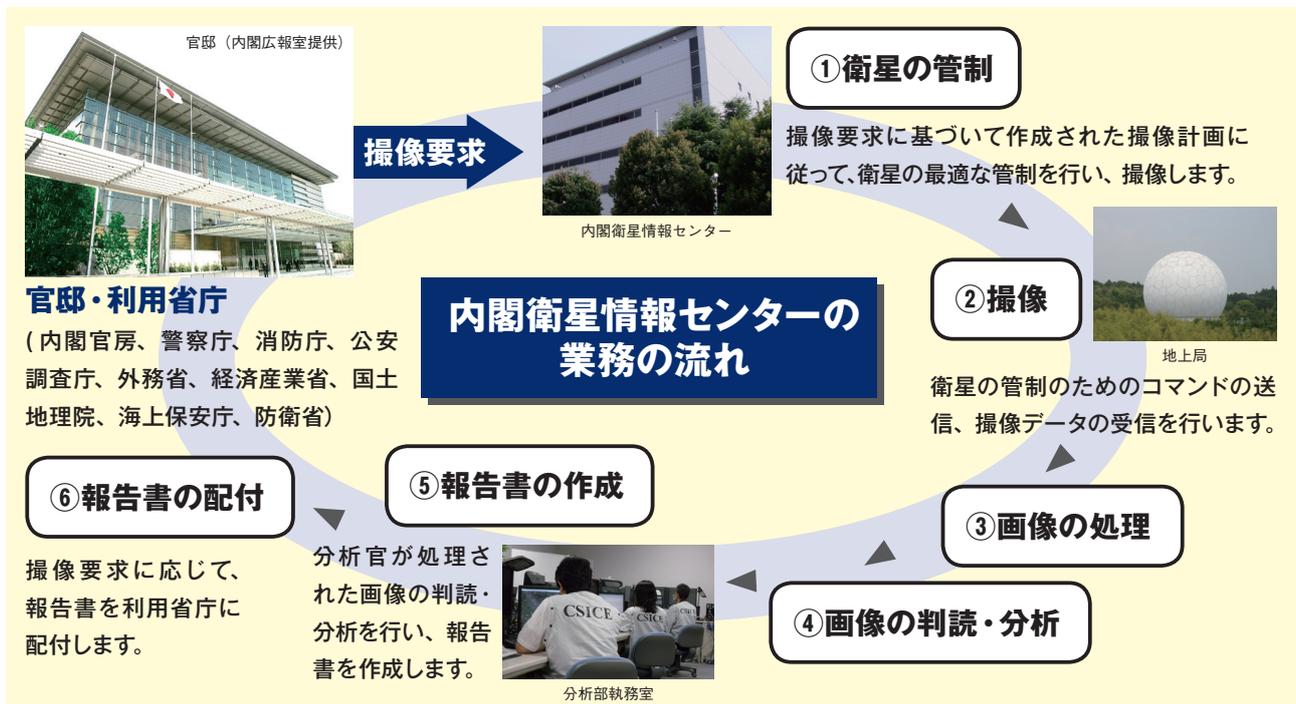


## 情報収集衛星について

- 情報収集衛星には、光学衛星とレーダ衛星があります。
  - 光学衛星は、デジタルカメラと仕組みが類似しており、地表からの光を検出する衛星です。詳細な分析に適していますが、夜間や悪天候時の撮像には不向きです。
  - レーダ衛星は、電磁波を放射し、反射波を検出する衛星です。日射に依存しないため、夜間や悪天候時でも撮像できます。
- 地球上の特定地点を1日1回以上撮像するため、現在、光学衛星2機、レーダ衛星2機の4機体制を維持していますが、撮像頻度の制約といった課題等があることから、撮像時間の多様化及び撮像頻度の向上のために情報収集衛星(IGS)8機、データ中継衛星2機の合計10機を整備の目標としております。
- 情報収集衛星は、安定的かつ確実な開発を行うため、ミッションに係る重要な部品等(光学ミラー、合成開口レーダ等)の自主開発を基本として開発を進め、欧米の最先端の商業衛星を凌駕すべく、最先端の研究開発に取り組み、衛星システムの機能・性能の抜本的向上を目指し、計画的に研究開発に取り組んでいます。

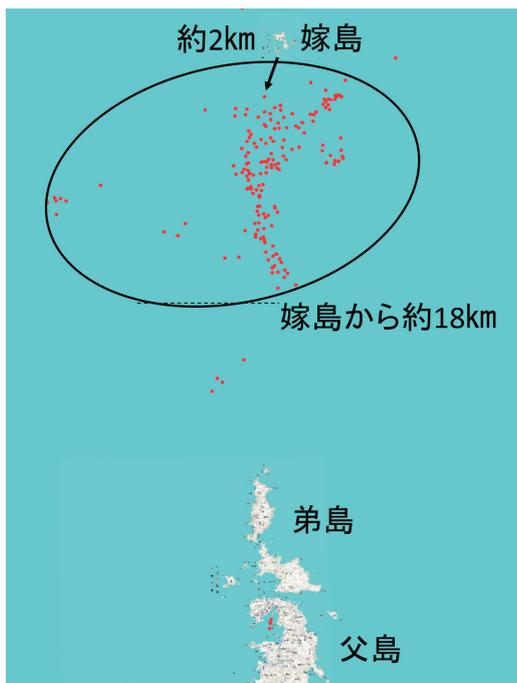


光学1号機イメージ図



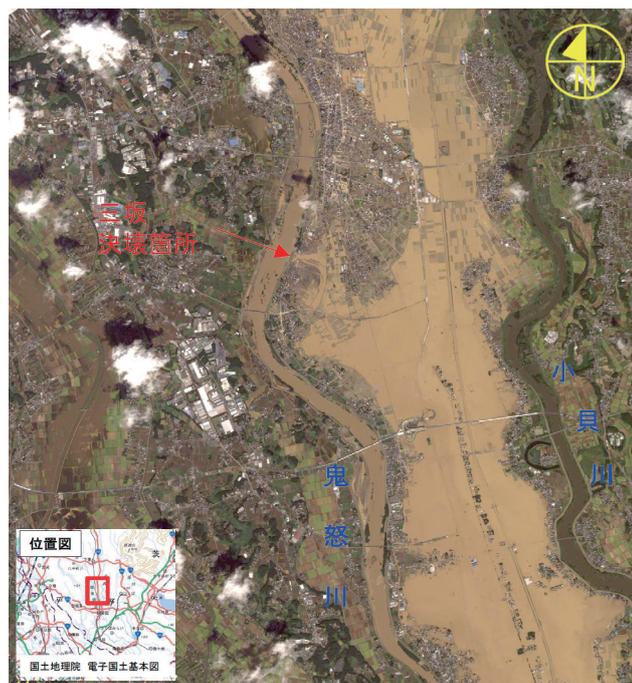
## 画像情報の活用事例

- 北朝鮮によるミサイル発射等、我が国の安全保障に影響を及ぼす各種事象の把握に活用
- 東日本大震災のような大規模災害への対応等の危機管理に活用
- 必要に応じ、地図や加工処理した画像を公表



違法操業について公開した漁船の分布図 (一部)

平成26年、小笠原諸島周辺で違法操業を続ける中国漁船とみられる外国漁船について、公表したものです。



大規模災害時において公開した加工処理画像 (一部)

平成27年、台風第18号による大雨等に係る茨城県常総市の被災状況について、公表したものです。

## 専門家としての自己実現



**平成13年採用(男性)**  
採用後、一貫して  
分析部業務に  
従事。

私は民間企業で20年ほどの期間をレーダ専門の技術者として過ごした後、この分野をさらに究めたいと思い内閣衛星情報センター分析部に奉職しました。

数名の若手職員とともに、レーダおよび光学衛星データの解析手法の研究開発に取り組んでいます。

最先端の衛星により得られた画像データに対して我々が構築した解析手法を適用することによって、我が国の安全保障・危機管理に資する成果を得た時には、この上ない達成感を感じることができます。

私の班では、関連分野における世界の研究動向を調査・把握し、我々の独自の発想を加えて解析手法を開発していますが、その際に若手に対しては、衛星やレーダ等の専門知識について、私が時間をかけてじっくりと教育します。教育のための時間的な負担は大きいのですが、後継者育成は調査研究自体に劣らず重要な課題と認識し取り組んでいます。

調査研究のためには文献調査ばかりではなく、語学力も重要となります。海外の関連学会に年数回出席しますが、若手を対象とした充実した教育プログラムが準備されているため、皆、短期間にめざましく能力を向上させ、このような学会の際にも目覚ましい活躍を見せてくれます。

この様な分野に興味を持ち、我々とともに取り組んで頂ける方は、ぜひ当センターの門を叩いてみてください。皆様と共に働ける日を心よりお待ちしております。

## 宇宙に関わるシステム開発



**平成23年採用(男性)**  
管理部勤務を  
経て、現在は技術部  
業務に従事。

皆さんは、内閣衛星情報センターがどのような業務をしている組織か想像できますか。情報収集衛星の開発、運用、画像情報の収集や分析など、その業務は多岐に渡りますが、具体的な業務内容をイメージするのは難しいかもしれません。そこで、少しでも理解を深められるよう、現在私が担当している「地上システムの開発」について紹介します。

地上システムは、衛星の状態を監視し、撮像するための指令を送ったり、衛星が撮像した画像を受信・処理をするなどの様々な機能を有しています。現在、私は今後打上げ予定の衛星の性能に対応できるように、現システムの機能を改善させ、新しい地上システムの開発をする業務に携わっています。規模が大きなシステムで新たなことを常に取り入れていくということもあり、開発を進めることは一筋縄ではいかなく、課題も多くあります。しかし、課題があるからこそ一つ一つの課題を同僚と協力して解決していくことができ、それがこの業務の楽しさに繋がっています。また、様々な部署の職員や職員以外の外部の方と接する機会が多く、新しい技術や知見に触れることで、日々刺激を受け、やりがいを感じています。

今回、地上システムの開発についての業務内容を紹介しましたが、少しでも内閣衛星情報センターに興味を持っていただけたら、説明会や官庁訪問で深い話を聞いていただければと思います。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

## 挑戦できる職場



**平成26年採用(女性)**  
管理部勤務を  
経て、現在は分析部  
業務に従事。

内閣衛星情報センターでは、情報収集衛星によって得られた画像の分析や、その他の調査を行っています。情報収集や分析のような当センター独自の業務以外にも、衛星の運用やシステムの研究開発など、様々な業務を経験することができます。私からは、各種行政組織に共通した業務としてイメージしやすい管理部の業務について紹介したいと思います。

私は採用後、管理部に配属され、国会対応や関係省庁との窓口業務などの調整業務、当センターの中長期に渡る計画の策定などの企画立案業務に携わりました。大学時代は、文系の学部を専攻していたため、人工衛星に関する知識が無く、資料に目を通しても、内容が理解できずに悩むこともありましたが、知識や経験の豊富な上司や先輩達の丁寧な指導に支えられ、業務を一步步進めることができました。また、管理部での仕事は、突発的な事案に対応することも多く、慌ただしく緊張感のある毎日でしたが、行政の仕事の基礎を学ぶことができる貴重な経験となりました。

衛星と聞くと、高度な専門性が求められるように感じるかもしれませんが、また、男性職員の比率が高いイメージを持たれる方が多く、女性の方は活躍できるか不安に思うかもしれません。しかし、性別によって業務内容が変わることはありませんし、専門分野に関係なく、様々な業務にチャレンジできる職場です。時には困難な業務に直面することもあります。当センターでしか経験できない面白い業務が沢山ありますので、興味を持たれた方は、是非当センターを訪問してください。

# 内調職員の座談会

▶ 2016年4月某日、内閣情報調査室及び内閣衛星情報センターに勤務する若手職員からベテラン職員まで5名の職員が集まり、座談会を開催しました。座談会という初の試みに、皆がそわそわ…。このトークを読んで、もっと内調職員と話してみたい!と欲していたら、幸いです。



私は国内部門に所属して、2年目になります。日々緊張の連続ですが、内外の経験豊かな方と情報や意見を交換し、心優しい先輩のもとで鍛えられています。それにしても、内調に入室して以来、学生の時よりも勉強しているように感じるのですが(笑)、先輩方の新人時代はどのような感じでしたか？

私も日々勉強の毎日でしたね。仕事の内容はもちろんですが、内調は、官邸や関係省庁に頻繁に行き来するので、色々な場所を覚えるのに苦労した記憶があります。官邸には行くたびに緊張していました。総理や官房長官を実際にお見かけしたこともありますし、どの省庁にもない独特の雰囲気があります。よく迷子になっていたのは内緒ですが(笑)。



私は、入室1年目にしたある失敗が一番記憶に残っています。詳しくは言えませんが、情報の収集・伝達がいかに難しいか、肌身を持って痛感しましたね。今でも、ふとしたときにこのときの経験を思い出しますし、それが業務にも活かしていると思います。

最近1年目から官邸に関わる機会が多くなったね。内閣情報官のブリーフィングを通じて自分たちの仕事の成果が官邸にいる総理、官房長官に届くという、官邸との“至近距離”で仕事ができることが内調ならではの点だけれど、そうした官邸の近さを1年目から感じることは本当に恵まれていると思うよ。情報を収集・分析して報告書を編集するというのが私たちの“稼業”なわけだけれど、日々感じるように、知的好奇心を刺激する、かなり“クリエイティブ”な仕事だよな。



今、私は、内閣衛星情報センターで衛星画像の判読・分析業務を担当していますが、この業務は、画像から得られる意味ある情報を漏れなくフォローし、一つ一つ評価する作業がメインです。まさに“クリエイティブ”な仕事であり、かなり骨の折れる作業ではありますが、緻密な積み重ねにより新たな発見に至ることがあり、成し遂げたときの達成感は何事にも代えがたいですね。

私が一番面白いと感じたのは、“資料の見せ方”ですね。多忙な総理や官房長官に短時間で報告するために、報告資料を分かりやすく、ポイントを的確に押さえて作成するのは至難の業。国内部門に在籍中に作っていた新聞のスクラップも、非常にシンプルな業務ですが、多忙で新聞を読み込むことのできない読み手の立場に立って、「これを読めばとりあえず今日の時事は理解できる」ものを作る必要があり、内容を端的に表したタイトルの付けられた記事を選んだり、新聞社により異なる論調である場合はそれが分かるよう配置したりと、かなり頭を使いました。前提として記事の背後関係や前後関係も的確に理解しておく必要もありますしね。それでも、日々「こだわりの一冊」を作り上げることは、本当に楽しかったな。



次ページへ続く



**A** 平成22年採用  
男性

総務部門を経て、現在は国内部門に勤務する若手ホープ。



**B** 平成20年採用  
女性

総務・国際部門勤務を経て、現在は衛星情報センターで分析担当として活躍する女性職員。



**C** 平成19年採用  
女性

育児休業を取得後、復帰したママさん職員。



**D** 平成12年採用  
男性

採用後多くの時間を国際部門や在外公館勤務で過ごした国際派中堅職員。



**E** 平成2年採用  
男性

国際部門を皮切りに内調の殆どの部門を経験。内調の全てを知りつくすベテラン。



内調は、国際部門や国内部門で行う情報収集・分析業務や、総務部門が行う官房業務と、色々な分野の仕事を経験できるし、勤務地も、国会だったり、外国だったり、情報コミュニティ省庁だったり多岐に渡っているよね。“未体験ゾーン”に突入して、そこから“帰還”した時に、自分のフィールドが広がったことを実感できるんだよね。ところで、Dさんは最近まで海外で勤務していたけど、どうでしたか？



在外公館で情報収集業務を担当していましたが、他国との情報交換は互いの国益をかけた真剣勝負でした。中でも、邦人保護案件に遭遇し、数十名に及ぶ邦人を無事に帰国させるために微力ながら貢献できたときは、やりがいを感じましたね。事件発生時、関係各機関との連絡交渉役を担うことになったのですが、情報集約センターに勤務していたときの「情報の洪水の中で、迅速に必要とされる情報を取捨選択する」経験を生かし、臨機応変に対処することが出来ました。



内調には、仕事に熱く、粘り強く、そして貪欲な職員の方が多いと感じますし、“手に職”といいますが、専門家タイプの人が多いと思います。皆さんのようになるには、業務を行う上でどんなことに気を付けたいのでしょうか…。内調を志望している皆さんはもとより、私も参考にしたいので(笑)、是非教えてください！



私たちの仕事の基本は、社会事象に関する文書や発言の内容を正確に理解し、取捨選択し、並び替え、統合して、意味ある「情報」に仕上げる、そして、それを簡潔に説明すること。日常業務あるいは日常生活において、読んだり、聞いたり、喋ったりする中にさえ、そうした“基本動作を鍛錬する”機会を散らばっていると思うなあ。



私は、国際部門で各省庁との調整業務を担当した際、調整が難航することが多く、体力的にも精神的にもハードでしたが、人と人とのつながりの大切さを痛感しました。情報の多くは人を介してもたらされるので、どんなフィールドで何の業務をしても同じではないでしょうか。



この採用パンフを手にとって下さっている方の中には、「内調に入ったらこんなことをやりたい」という明確な目的をお持ちの方もいると思いますが、実際に働いてみると、思っていたのとはずいぶん違うという印象を持たれることもあるかもしれませんし、まったく未経験の業務に就くこともあるかもしれませんね。どのようなことも楽しむことが大事だと思うなあ！



そうですね。内調では、全職員が、情報収集や分析に携わる分野で、自らがその分野のプロフェッショナルとして活躍することが期待されているので、在外を含む研修の機会を活用して、単なる自己研鑽の枠を超え、自らの可能性を見極めてほしいです。今まさに我々が生きている社会がどういうものかを探求してみたい意欲旺盛な皆さんと一緒に仕事ができることを期待しています。



パンフレットを一読して、自分のやりたいことに“何となく”つながるところがあるなあと感じたならば、是非とも私たちに“アクセス”してみてください。説明会等でお会いできることを楽しみにしています！

# 処遇・給与・福利厚生 - ワーク・ライフ・バランスの重視 -

## 給与（平成28年4月1日現在）

### ・一般職(大卒程度試験)合格の場合 … 行政職（一）1級25号俸

本俸月額	176,700円
地域手当月額（20%）	35,340円
本府省業務調整手当	3,600円

**合計 215,640円**

### ・ボーナス … 年間4.20月分（6月：1.975月分、12月：2.225月分）

通勤手当、超過勤務手当などのほか、民間の賃貸住宅に入居した場合には、家賃額に応じて一定の住居手当が支給されます。

なお、大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。

## 勤務時間と休暇

- ・勤務時間 原則として9時30分から18時15分
- ・有給休暇 年次休暇は年間20日間（4月採用者は、その年の12月まで15日間）  
そのほか、特別休暇(夏季、結婚、忌引等)等
- ・育児休業等 育児休業をはじめ、仕事と育児の両立を支援する様々な制度が活用されています。



採用担当  
20代女性

当室で育児休業を取得した職員は全員職場に復帰しています。最近育児休業から復帰した職員は、育児短時間勤務等様々な制度を利用するなどして、仕事と家庭を両立させながら、活躍していますよ！

## 福利厚生

- ・共済制度 国家公務員は共済組合（当室の場合は内閣共済組合）に加入することとなり、組合員として、病気、負傷、出産等の場合に各種の給付が受けられます。また、各種契約施設（保養所等）を割引料金で利用することができます。「グループ保険制度」（各種保険、団体積立）も利用できます。
- ・健康管理／その他 庁舎内に内科と歯科の診療所があるほか、共済組合の直営病院（虎の門病院等）で随時診察が受けられます。また、健康電話相談の設置や定期的な健康診断の実施、人間ドックの斡旋等を行っています。  
このほか、当室では、職員同士の親睦を深めるため、野球、フットサル、テニス、ボウリング、プロ野球観戦、ハイキング、町中散策等、各種のサークルがあり、それぞれ活発に活動しています。

# 業務と採用に関するQ&A

## Q 実際にどのような仕事をしますか？



採用担当  
40代男性

**A** 内閣情報調査室は、内閣の重要政策に関する情報の収集、分析を行っており、それらの情報は、総理を始めとする官邸幹部や国家安全保障会議等の政策部門へ提供され、様々な政策判断を行う際の基礎となります。各職員は、タイムリーで質の高い「情報（インテリジェンス）」を集約すべく、直面する重要課題に関して、経緯の調査、現況の把握、今後の動向の分析等を多角的な観点から行い、**プロダクトとしての「インテリジェンス」**を紡ぎ出す作業をしています。また、外国の情報機関による情報収集活動から、我が国の重要な情報を保護するためにカウンターインテリジェンスに取り組んでいるほか、「特定秘密の保護に関する法律」の所管部局として、特定秘密の保護に関する政府内の企画立案・総合調整を担っています。

## Q 他にも情報収集を行っている機関がありますが、違いは何ですか？



採用担当  
40代男性

**A** 他の省庁がそれぞれの所掌する分野についての情報収集、分析を行うのに対して、内閣情報調査室は、官邸直属の情報機関として、「内閣の重要政策に関する情報」の収集、分析を所掌しており、**特定の政策目標に限定されることなく、幅広い事象を対象として情報の収集、分析**を行うことが特徴です。また、内閣情報調査室は、官邸と情報コミュニティ省庁との間の連絡調整を行い、情報コミュニティの「要」の役割を果たしていることも他省庁との違いの一つです。

## Q 採用はどのように決定していますか？

私も10人以上の  
職員の方と  
お会いしました！



採用担当  
20代女性

**A** 面接によって受験者の人柄、企画力、コミュニケーション能力、将来性等を総合的に評価しています。当室の業務内容は多岐にわたっているため、必要とされる人物像も多様です。実際の職員の顔ぶれを見ても**多士済済**と言えますよ。

## Q 職員に求められる資質は何ですか？



採用担当  
40代男性

**A** 例えば、新聞、テレビ、雑誌、専門誌、インターネット等、様々なメディアの公開情報を丹念に調べる作業を行うためには、問題の本質を把握する力、冷静な分析力、歴史的経緯を踏まえた深い知見等が必要となりますし、専門家と文字になっていない事実や情報をやりとりしたり、それらについて意見交換をしたりするためには、相手から信頼され、豊かな人間関係を構築する能力が必要になります。さらに、変化する内外の情勢に応じて、組織が有するプロダクトを有効に活用し、情報業務を効果的に推進するためには、組織のマネジメント能力も求められるでしょう。ただし、これらの能力は一朝一夕に身につくものではありません。これらの能力を日頃の業務経験を通して徐々に伸ばさせていく、そうした**成長プロセスを楽しめること**が、内閣情報調査室で勤務をするにあたり、求められることでしょう。

## Q ▶ これまでの採用実績は？



採用担当  
20代女性

A 毎年概ね数名を採用しています。公務員削減傾向にある中、業務の重要性から、順調に採用を継続しており、本年度も**国家公務員一般職（大卒程度）**からの採用を予定しています。

### 採用実績

( ) 内は女性。

表の23年度はⅡ種、24年度～27年度は一般職（大卒程度）からの採用数。

#### ●本室

平成28年度は「行政」区分に加え、「電気・電子・情報」「機械」「物理」区分からの採用を予定しています。

試験年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (予定)
行政区分	5人 (0人)	2人 (1人)	3人 (0人)	4人 (2人)	3人 (1人)	<b>2人</b>
技術系区分						<b>1人</b>

#### ●内閣衛星情報センター

技術系については、平成23年度～26年度は「電気・電子・情報」区分から採用をしました。平成28年度は平成27年度と同様に「電気・電子・情報」「機械」「物理」区分からの採用を予定しています。

試験年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (予定)
行政区分				1人 (1人)	1人	<b>1人</b>
技術系区分	1人 (0人)	1人 (0人)	0人	2人 (1人)	3人	<b>3人</b>

採用担当より  
皆さんへ



採用担当  
40代男性

ここまで採用パンフレットをお読みになった皆さんは当室にどのような印象を抱いたでしょうか？まだ、謎めていますか？

今年度は、当室をより身近に感じて頂けるよう、初めて職員による座談会を開催しました。当室では、上司部下、先輩後輩の垣根を越え、たわいのない雑談から熱い議論まで、様々な対話が日々飛び交っています。そうした職員と職員とのコミュニケーションの過程から、当室の新たなプロダクトの数々が生まれているのです。

さて、当室の業務は、国際テロ情報の収集や特定秘密保護に関する事案対応等、急速に拡大しています。それに伴い、新たな業務に取り組むチャレンジ精神や社会の変化に臨機応変に対応する能力等、皆さんへの要求も多様化しています。我こそは、と思う方、是非お待ちしています。 **Knock on the door!**

※先輩からのメッセージで使用している写真はイメージです。



〒 100-8968

東京都千代田区永田町 1-6-1 内閣府庁舎 6 階

TEL 03 (5253) 2107 (採用専用)

TEL 03 (3581) 5083 (直通)

[http://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou\\_index.html](http://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html)

(内閣官房ホームページ採用情報)